多様性(ダイバーシティ)を考える

ー第6回開倫杯ドッジボール大会を迎えてー

開倫ユネスコ協会
会長 林 明夫

1. はじめに

第6回開倫杯ドッジボール大会にお集まりの皆様、おはようございます。本日は開倫杯ドッジボール大会に参加のため、ようこそ佐野市においで下さいました。主催者を代表して、心から歓迎申し上げます。

この大会を主催する開倫ユネスコ協会は、「心の中に平和の砦(とりで)を築こう」というユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の基本精神のもと、「人間の安全保障(ヒューマン・セキュリティ)」の促進を基本理念として設立されました。平和を達成するためには、国家の安全保障を補うものとして、一人ひとりの人間としての安全を保障することも大切であります。一人ひとりが各人に応じた「能力を強化(エンパワーメント)」し、紛争の中にあっても安全を「保護(プロテクション)」されなければなりません。「人間の安全保障」の内容の第一である「能力強化」の第一歩は、健全な身体を鍛えることでもあります。

この開倫杯ドッジボール大会は、「子どもは風の子、元気な子」を合い言葉(あいことば)に、ドッジボールを通じて健全な身体とフェアプレイを基本とするスポーツマンシップを育成することを目的としてスタートしたものであります。

この大会の基本的な使命(ミッション)を十分ご理解の上、本日より一日をお過ごし頂くことを希望いたします。

2. 多様性(ダイバーシティ)を考える

本大会を通じて、皆様と共に「多様性(ダイバーシティ)」について考えていきたいと思います。

お陰様で、本大会には、関東地方各地から46チーム、およそ900名の選手の皆様と、ご引率の保護者の皆様、応援の皆様、審判員の先生方をはじめとする大会役員の皆様の合計1200名以上の方々にご参加頂いております。

ドッジボールをはじめ各種スポーツは、様々な人々が共通のルールに基づいて、今まで蓄えた技能を競うものであります。ですから、今日ご参加の皆様は、同じドッジボールを愛する仲間にはいろいろな人たちがいて、一つ一つのチーム、一人ひとりの選手は皆、素晴らしい個性を持っているものだなあということをご認識頂きたいです。

本日は、全国脊髄損傷者連合会栃木県支部や、やまゆり学園の障害をお持ちの生徒の皆様にもご参加頂きまして、本大会に参加された選手の皆様と一緒に「的当てゲーム」や「ボトルボーリング」を楽しみながら、お互いの交流を図らせて頂く予定です。

障害をお持ちの皆様が様々な困難を克服しながら一所懸命に生きていらっしゃることも、たくさんある生き方の一つであるということ、多様性(ダイバーシティ)という考えを通じてお考え頂きたいと存じます。

様々な生き方を偏見なく受け入れ、一人ひとりが大切にするものを尊重し合う態度こそが、「心の中に平和の砦(とりで)を築こう」というユネスコの基本精神に合致し、「人間の安全保障」のもう一つの内容である「保護(プロテクション)」を促進するものであると確信いたします。

3. おわりに

本日のこの大会は、従来の佐野市と田沼町、葛生町が合併して本年4月1日に新しく発足した「佐野市」で開催されるものであります。

大会にご参加の皆様は、豊かで素晴らしい自然、葛生原人や人形、佐野厄除け大師をはじめとする様々な文化や伝統、佐野ラーメンなどで知られる食文化、新しいショッピングセンターやアウトレットモールなど、人々が大切にしているものや新しい佐野市の素晴らしさにも注目なさり、地域としての多様性(ダイバーシティ)をお考えになるきっかけにして頂きたく希望いたします。

今日一日元気にご活躍下さい。

2005年4月19日